令和４年度

研 修 集 録

秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校

目　次

Ⅰ．　授業研究

◇指導主事訪問

●授業研究会及び全体会について　……　2

●令和4年度校内相互授業参観研修について　……　3

●学習指導案・分科会記録

授業者　商業科　教諭　沼 澤　優　佐 藤　亜樹子　…　5

授業者　理　科　教諭　加 納　綾 子　…　8

●全体会記録　……11

◇福祉授業実践報告

教　諭　髙橋　直子　……14

Ⅱ．　職員研修

●特別支援教育に関する職員研修

教　諭　小泉　由起子　……18

令和4年度 指導主事訪問 授業研究会及び全体会について

Ⅰ 授業研究会

1．期　日　令和4年10月27日（木）

2．訪問者

高校教育課　指導主事　近藤俊春（商業）
高校教育課　指導主事　丹　啓記（農業）

3．本校の学校訪問１か月前課題

ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践

手立て：①本時で何を身に付け、何ができるようになるのか、目標を明確にする。
具体的にゴールをみせる。
ICT を活用した**「思考を交流させる場面」「交流を通じて思考を広げる場面」「協働して問題を解決する場面」**等を設定する。
②主体的に取り組むための課題設定や発問の工夫

4．授業者

＜商 業＞　沼澤　優　・　佐藤亜樹子
＜理 科＞　加納綾子

Ⅱ 全体会

グループによる発表
指導主事講評
校長あいさつ

令和4年度校内相互授業参観研修について

教務（研修）部

1 目的　指導主事訪問１ヶ月前課題を意識した授業の実践に向けて、研修を行う。

2 参観の期間　Ⅰ期　令和4年9月5日（月）～16 日（金）
　Ⅱ期　令和4年 10 月3日（月）～11 日（火）、18 日（火）～25 日（火）

3 課題　～指導主事訪問１ヶ月前課題～
『 ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 』

手立て ①本時で何を身に付け、何ができるようになるのか、目標を明確にする。
・全体的にゴールを見せる。
・ICT を活用した**「思考を交流させる場面」「交流を通じて思考を広げる場面」「協働して問題を解決する場面」**等を設定する。

〈 各場面の設定での注意事項 〉
・思考を交流させる前に、まず１人で考えさせる。
・ねらいに即してペアやグループで交流する。
・自由に意見を述べ合う中で論点を明確にする。
・場面設定が目的化しないようにする。
・交流することの必然性（友達と交流したい、話し合うことで解決の見通しが持てそう）を引き出すよう工夫する。
・対話を通して課題が解決できるよう、相手の話をじっくり聞く「共感」「傾聴」する姿勢や疑問点を質問する姿勢を奨励し、聞き手としての能力を育てる。

手立て ②主体的に取り組むための課題設定や発問の工夫

共通理解：①授業のはじめに「本時の目標と予定（流れ）」を提示する。
②プリントやパソコンを利用するとき、フォントは「UD」を使用する。
※明朝「き・さ・ら」　UD「き・さ・ら」 ← 普段書く字に近いフォントになっている

4 参観の回数　Ⅰ期は１回以上の参観を行う。
Ⅱ期はⅠ期で参観した授業に加えて、研究授業を行う先生の授業を参観する。

5 参観の流れ
【参観前】①参観を希望する授業担当者に事前に参観のお願いをする。
【参観後】②相互授業参観チケットに、「参観日」「授業者からサインまたは押印」「参観者のサインまたは押印」の部分に記入して、研修担当まで提出する。
③授業参観シートにコメントを記入する。授業担当者の枠に、【参観した科目名】とコメントを入力する。

6 授業参観シートの中から

科目	学年	良かった点	課題点	その他
国語表現	2G	・時間を測って活動をさせている。 ・生徒が関心を持ちそうな漫画の教材を用いてわかりやすく説明している。 ・漫画教材を電子黒板に映し出し、無駄がない。 ・ペアで音読することで、お互いに読み方の確認ができていて良かった。 ・ペアでの音読、発表態度等日頃の指導が感じられた。 ・電子黒板やタイマーを効果的に活用していた。 ・本時の目標が明確であった。	・前時の続きであるが、いきなり始めないで生徒に音読させるなどの活動を取り入れてもよいと思った。 ・生徒の机上に不必要なものがあったまま授業に入っていた。2Gの生徒はよくあることだと思うので、指導してから授業に入ってほしい。 ・導入や設問の時間配分を再考してみてはどうか。	・生徒が先生の話をしっかり聞こうとしていたのが印象的だった。 ・挙手して答える生徒が多く、受け身になっていないことも良かった。 ・生徒の些細な発言に良く耳を傾けていたように感じた。

科目	学年	良かった点	課題点	その他
化学基礎	3G	・口調が穏やかで聞き取りやすい。 ・プリントも生徒の記入部分がゆとりを持って作られていた。 ・無駄のない説明で、生徒に合わせた分かりやすい説明であった。	〈なし〉 〈その他〉 ・数学もままならない生徒達に、化学を教えるのは本当に大変なことだが、よく指導していると感じた。 ・自分の授業を改める機会になった。 (無駄な説明をしない、余裕あるワークシート作成)	
生物基礎	2G	・本時の目標が明確であった。 ・ジャムボードで思考を交流させる場面もありよかった。 ・ワークシートをPDF形式にしたものを電子黒板で映し出し、書き込む形で確認するという取り組みが、すばらしい。 ・血液中の様々な物質の、腎臓内での動きに関する動画は、生徒の興味をひきつけるものだと感じた。 ・生徒が学習の筋道を立てるための助言（何を理解できてほしい）が、適切なタイミングで入っていた。	・4班で4つのことを調べさせたが、2班で2つのことを調べさせ意見交流させた方がいいと思った。また、班ごとにまとまって座らせ、意見交流させる方法はどうか。 ・ワークシートの表に入れる文章の答え方が、生徒によってまちまちだった。（含まれるか含まれないかの部分）こうした文章形式で答えるという解説を入れてもよかったのではないか。	・生徒は、血液の中に酸素や栄養素が溶け込んでいることがわかっていない。イメージの貧困さが目立った。
家庭総合	2G	・これからやること、次の活動が始まる時間等を黒板に提示し、生徒がやることがわかりやすい ・子育て支援について自分たちの地域についても調べさせ、身近に感じさせている	〈なし〉 〈その他〉 ・授業中の発言を上手に拾っているのはさすがだと思った。 ・丁寧に指示しているにもかかわらず時間内にまとめまでしっかり終わらせるところを見習いたい。	
ビジネス実務	3G	・本時の目標が明確でわかりやすかった。 ・他者からの評価で、個人に足りない点がわかりやすい表が作られており、生徒にとってはまとめやすいと思った。 ・内容が実践的で、生徒も意欲的に取り組んでいた。	・PC、タブレット両方を 全員同じ画面に揃える ことに時間がかかる点がもったいなく思った。	
ビジネス基礎	2G	・本時の目標が明確に示されており、生徒の活動ともリンクしていた。 ・学習内容に関する動画を上手に活用していた。 ・活動の指示が的確でわかりやすい。	・問題集の演習では生徒のアウトプットの時間があったため、動画に関するワークシートの演習でもそうした機会があればよかったと感じた。	生徒の発言を拾いながら、コミュニケーションがしっかり図られていると感じた。
介護福祉基礎	2G	・字がきれいでボードがとても見やすいため、生徒はワークシートのまとめがしやすい。 ・生徒の発言を上手に拾い上げ、発展させていた。	〈なし〉 〈その他〉 生徒の対応に余裕があるため、落ち着いた雰囲気で授業が行われていた。心の余裕が私には必要だと反省した。	

商業科(ビジネス実務)学習指導案

期　日　令和4年10月27日(木)5校時
場　所　第1パソコン室
クラス　3年G組　男子3名、女子4名、計7名
教科書　ビジネス実務(実教出版)
授業者　秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校
　　教諭　沼澤　優(T1)
　　教諭　佐藤　亜樹子(T2)

1　単元名

第２章　ビジネスマナー　第２節　名刺交換と紹介

2　単元の目標

(1)　ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付ける。

(2)　ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

(3)　ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して，自ら学び，ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　生徒観

真面目な生徒が多く、授業に対して黙々と取り組むことができる反面、反応が薄いことも多々あり、発問内容や発問の仕方など工夫を必要とするクラスである。また、少人数ではあるが基礎学力に差があり、情報処理やビジネス計算の演習では、中々学びが積み重なっていかない生徒もいる。ただ、そうした中でも互いに教え合う習慣が身に付いており、主体的に取り組める面も持ち合わせている。

コンピュータの操作については、タブレットの使用が 2 年目に突入し、ほとんどの生徒が様々な操作方法を習得しており、教師より使いこなしている生徒もいる。

4　指導計画

(1)　名刺の作成・・・・・・・・・・2時間
(2)　名刺交換・・・・・・・・・・・2時間(本時2／2時間)
(3)　紹介のルール・・・・・・・2時間

5　単元の評価規準

知識・技術【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【主】
名刺交換についてマナーやルールを理解するとともに、ロールプレイングを通じて関連する技術を身に付けている。	名刺交換の意義と第一印象のブラシュアップについて、既習済みの表情や身のこなしと関連付けて考案している。	名刺交換について第一印象の向上を意識して、ロールプレイングに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

6　本時の目標

☆第一印象を意識して名刺交換ができる。

7　本時の学習展開

過程	生徒の学習活動	教師の支援・指導上の注意	備考（評価規準・評価方法）
導入 5 分	・挨拶および出欠確認 ・本時の目標および活動内容を確認 本時の目標：第一印象を意識して名刺交換ができる。		
展開 40 分	【座学内容】 ・前時に撮影した名刺交換の動画を全体で視聴し、タブレット端末を使って評価し合う。	・3 グループの動画を 1 グループずつ再生し、3 分間の評価時間を設ける。	
	発問：さらに良い印象を持ってもらうためには、どんなスキルが必要？		
	・評価をもとに、動作手順の確認と相手に良い印象を与えるためにどのような工夫、改善策があるかを考え、グループで意見を出し合う。	・前時に学習した教科書p20の本文（メモも含む）も参照して話し合うよう促す。	・さらに良い印象を持ってもらうために、どんな表情や身のこなしが必要か考察している。【思】 行動観察
	【実技内容】 ・グループに分かれて、動作手順の再確認と印象改善を図るために名刺交換の練習を繰り返す。	・次のツールを活用して、改善を図るよう支援、指導をする。 ①添付済みの YouTube 動画 ②教師からの助言・アドバイス ③タブレット端末で動画撮影（教師）	・名刺交換の手順だけでなく、相手に与える印象を意識して学習に取り組もうとしている。【主】 行動観察
	・全体の前で1グループずつ名刺交換を実演する。	・教師がタブレット端末で撮影する。	
まとめ 5分	・本時の振り返り ・挨拶	・相手に良い印象を持ってもらうために、どんな点を工夫したか。	・さらに良い印象を持ってもらうために、どんな表情や身のこなしが必要か考察している。【思】 ワークシート

授業の感想および分科会記録

◇ 授業者より

今回、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業実践をするという研究テーマのもと、「第一印象を意識して名刺交換ができるようになる」を本時の目標として授業を行った。卒業後、今以上に人との関わりが大事になってくる。コミュニケーションのきっかけである相手に良い印象を持ってもらうためには、どんな表情や身のこなしが必要かを考えさせ、自分に取り入れる良い機会となったのではないだろうか。

授業の前半は事前に動画撮影した名刺交換の様子を視聴しての自己評価。後半は自己評価をもとに各グループに分かれて改善点を修正するための名刺交換の練習。そして、ブラッシュアップ後の名刺交換と学習の振り返りという流れで展開した。いずれも生徒たちはタブレットを使いこなして、表計算ソフトへの入力や動画撮影などスムーズに操作し、それを題材にして意見交換をするなど思考を交流する場面や問題解決する場面に活用していた。

生徒が行った授業の振り返りは次のとおりである。大半が表情や身のこなしの改善を意識できたようである。また、前向きなコメントもたくさんあり一定の成果を上げることができたのではないかと思う。

最後に、今回の研究授業に際し、商業科の職員間で思考を交流し、協働して授業改善について話し合うことができた。今後もこのような機会を定期的に設けて研修に励んでいきたい。

【学習の振り返り】生徒７名

1. 自分の改善ポイントを的確に把握することができた。
   ⇒できた5名　まあまあできた2名　できなかった０名
2. その改善ポイントに対して、前向きに改善しようと取り組むことができた。
   ⇒できた6名　まあまあできた１名　できなかった０名
3. 今回の名刺交換の授業を通して得たスキルを普段の生活の場面でも活用できる。
   ⇒ぜひ活用したい6名　それほどでもない１名　活用しない０名
4. 今回の授業を通しての感想を述べてください。

・改善点を発見してから望んだ本番でもお勤めを勤務と間違えてしまいましたが、その部分以外は改善できていたので、言葉遣いも直せるように心がけていきたいです。
・前よりも改善できたところがあったので良かったです。
・名刺交換をやってみて改善するところもあるけどできている
・先生に動画を撮ってもらい動画を観ながら自分の改善するべきところを見つけることができました。自分の改善点を見つけてみんなの前で実践して少しずつ改善することができました。これで満足するのではなく自分をブラッシュアップしていきたいです。
・今回の授業で名刺交換のマナーを学べてよかったと思いました。名刺交換をする際に相手の会社と相手の氏名をきちんと言うのはすごく大切なことだということが分かりました。人の第一印象は表情なので明るくするのを忘れずに生活していきたいです。
・他のペアの名刺交換を見て最初に挨拶をしたり、よろしくお願いいたしますやありがとうございますと言ったりしていて、素晴らしいと思いました。事前に名刺を用意するなど改善をしたら前回よりもスムーズに名刺交換をすることができました。普段の生活でも活かしていきたいです。

◇ 参観者より

・T2 の役割がしっかりと行われていた。生徒の人数は少ないが、作業を伴う授業でのTの必要性を改めて感じた。
・生徒はこちら側が思っていた以上に積極的に取り組んでいて、ハキハキとした受け答えができていた。授業を通し生徒の成長を感じることができた。3観点の評価で実施していたが、新しい指導要領に合わせたのか。授業の内容によっては毎時間、すべての観点の評価を行うのは難しいと感じることがある。

教科【理科】 科目【生物基礎】 学習指導案

日　時　令和4年10月27日（木）
指導者　加納綾子（湯沢翔北高校雄勝校）
教科書　改訂 新編 生物基礎（東京書籍）
対　象　普通科　2年G組（12名）
単位数　2単位

1. 単　元　名
　1章　体内環境の維持　　3節　体内環境を調節する器官

2. 単元の目標
・体内環境を保つうえで、血液がどのような役割を果たしているか理解する。
・肝臓の構造を理解する。また、肝臓での化学的処理による体液成分の調節方法について理解する。
・腎臓の構造を理解する。また、腎臓での物理的処理による体液成分の調節方法について理解する。

3. 生徒と単元
本学級は男子10名、女子2名、計12名の学級である。理解力や学習意欲に個人差は見られるが、概ね授業には元気よく取り組むことができるクラスである。しかし、事象を自分の言葉で表現することを苦手とする生徒が多く、諦めてしまう生徒もいることが課題である。互いに学び合い、最後まであきらめずに取り組む姿勢を身につけさせたい。体内環境について学ぶ本単元の内容は、生涯に渡り自分のからだと向き合って生きていく生徒たちにとって重要なものであるため、自分のからだのことについて学んでいるという自覚を持たせたい。また、各小単元で断片的に学ぶだけではなく、各小単元の知識を結びつけられるように指導していきたい。

4. 単元の指導計画
1　体内環境と体液の循環　　2時間
2　恒常性と血液　　2時間
3　肝臓のつくりとはたらき　　1時間
4　腎臓のつくり、尿の生成　　2時間・・・・本時2／2

5. 単元の評価規準

【A】関心・意欲・態度	【B】思考・判断・表現	【C】観察・実験の技能	【D】知識・理解
・細胞と体液との間で物質がやり取りされることで恒常性が保たれていることから、循環系の意義やしくみについて興味を持っている。	・酸素解離曲線を用いて、赤血球が酸素を運ぶしくみについて考察することができる。 ・腎臓で、タンパク質やグルコースがどのようにろ過・再吸収されるか説明できる。 ・肝臓でどのような化学反応が行われているか説明できる。	・動画で両生類の赤血球を観察し、ヒトの赤血球と比較することができる。	・体液の循環が体内環境の維持に重要であることを理解している。 ・各血球のはたらきを理解している。 ・肝臓および腎臓のはたらきが、体内環境の維持に深く関わっていることを理解している。

6. 本時の計画
(1)本時の目標
腎臓の構造をふまえ、①糖の再吸収の必要性、②タンパク質の非ろ過の必要性、③水分の再吸収の必要性について説明できる。また、①②③をとおして、腎臓における尿生成の意義を理解する。
(2)本時において育成を目指す生徒の資質・能力
・尿検査を題材とし、腎臓のはたらきについて調べ、他者へ説明する力を養う。
・互いに説明したり質問したりする中で、疑問を解決していく姿勢を身につける。
(3)展開

	学 習 活 動	学習形態	指 導 上 の 留 意 点	評　価
導入5分	1 腎臓の構造について復習する。 2 本時の目標を確認する。 本時の目標：腎臓の構造をふまえ、尿生成の過程を説明できる。	一斉 一斉	・本時の学習内容にスムーズに入れるよう、既習事項を整理する。	
展開35分	3 尿検査の結果の一例を提示する。 4 提示された4つの研究テーマについて、各班で担当するテーマを決める。 主たる発問（研究テーマ） ①なぜ、尿に糖が含まれると良くないのか。 ②なぜ、尿にタンパク質が含まれると良くないのか。 ③なぜ、尿の比重が高すぎると良くないのか。 5 各班で調べてまとめたことを発表する。 発表を聞きながら、他の班の内容について、ポイントをメモする。	一斉 グループ グループ	・生徒たちが毎年受ける尿検査は、腎臓のはたらきを調べる目的があることを理解させる。 ・尿検査の項目から3項目（4テーマ）をピックアップして、研究テーマを提示する。 ・4テーマを各班に振り分け、調べてChromebook でまとめさせる。 ・なぜ再吸収される物質とされない物質があるのかを考え、腎臓で体液の成分を調節していることに気づかせる。	腎臓でタンパク質やグルコースがどのようにろ過・再吸収されるか説明できる。【B】
まとめ10分	6 尿生成の過程について、プリントに記入する。	個人	・本時の学習内容を振り返り、尿生成の意義をまとめる。	腎臓のはたらきが，体内環境の維持に深く関わっていることを理解している。【D】

授業の感想および分科会記録

◇授業者より

今回の1ヶ月前課題は「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の授業実践」であり、手立てとして「ICTを活用した『思考を交流させる場面』『交流を通じて思考を広げる場面』『共働して問題を解決する場面』」を設定することとした。これまで、電子黒板で図を提示しながら説明したり、生徒がタブレットを使って調べたりする機会は設けていたが、ICT を活用して思考を交流するという場面は設定できていなかったため、今回の研究授業をとおして、より有効的な ICT の活用方法を学ぶ良い機会をいただくことができた。

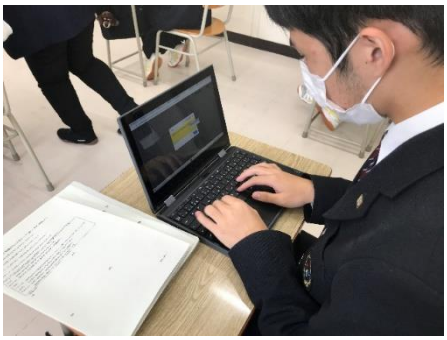
展開の中で、まずは個人で情報収集をしながら Jamboard にメモする時間を設けたが、何を手がかりに調べたらよいか分からない生徒や、自信がなくて書けない生徒が多く見受けられた。次にグループごとに内容を整理して Jamboard にまとめていく際には、個人での活動が滞っていた生徒も話し合いやまとめに参加できていたようであった。生徒の中には、与えられた課題にとどまらず、腎臓に関わる病気について関心を持って掘り下げて調べていく者もいた。最後に設定していたグループごとの発表は、残念ながら時間が足らずに1班のみとなってしまったため、次時で残りの班の発表を行った。自分の班の発表をするだけではなく、他の班の内容に対する質問が出るなど、思考を広げ

ることに繋がったように見受けられた。

今回の反省として、個々の活動の際には、もっと具体的に課題を提示する必要があることと、インターネットで調べさせる際には官公庁や大学などの研究機関の情報に限定するといった指導も必要であることが挙げられる。一方で、ICT を利用して生徒同士で情報を交換したり、一緒に内容をまとめたりしていくことで思考を活発化させることができると実感することができた。今回の研究授業をきっかけとして、ICT の有効的な活用方法や生徒の思考を深めるための工夫について、実践しながら改善していきたい。

◇参観者より

・アクティブラーニングを念頭におきながら、ICT の活用をするとすれば、どこにポイントを当てながら授業を展開していけばよいのか。この課題によく取り組まれていると感じた。
・12人の生徒の中には、考えることができる子もいるが、あまり積極的でない子もいる。どのような発問を投げかけるのか選定が容易ではないだろうと感じた。
・このタブレット機器に十分に慣れていくことも必要だし、慣れるということは、試行錯誤が必要な時期でもあると思う。そんな中でジャムボードにトライされたということが素晴らしい。
・最終的に単元のまとめの中で、「なんで尿検査したんだ?」など、自分自身の健康に結び付けられるということになると、より発展性もある。なぜ生物を学ぶのか?ということにも結び付けられるのではないか。そうなると、これからの自分の人生につながっていく、つまり深い学びに繋がっていくのではないだろうか。
・子どもたちは先生にとてもなついている、慕っているように感じた。
・ジャムボードに入力していく点について、ひとりではできなくても、グループだとできていたところに感心した。
・作業ができない、としても、「できない」には様々なレベルがあると思った。グループになることで、できない生徒も「なんだ、こういうことでいいんだ」と確認できていたし、楽しそうに進めていた。
・できない子も、できる子も、それぞれの学びがあるんだなと感じた。
・USBからPDFを提示していた。PDFの機能を活用した新たな学びだと感じた。
・PDFが見やすかったし、復習していくのが大事だと思う。
・ひとつの流れが定着しているのが生徒にとって安心感につながると感じた。
・個の活動に至る前に、まずはブレーンストーミングの時間でイメージをもたせるという方法がある。個に行く前に、グループ内でくだらないネタでも良いので核となるキーワードをあげていき、そこを組み合わせていくことで、個の活動に入りやすくなる。キーワードを先に引き出すという手法もある。



全体会記録

Ⅰ グループによる発表

商業科「ビジネス実務」

【 授業者から 】

・ICT 活用について、商業科ということで、他教科の参考になるような新しい手法を取り入れた授業ができた。

・評価の観点をどこにおくかについて。1 時間で3観点は難しいとも考えたが、教員が 2 名で授業を行っているということで、この数とした。

【 協議より 】

・生徒たちに、自分たちがどのタイミングで評価をしているかということをアピールすべきかどうか。せっかく目標を立てているからには、生徒たちに示さなければならないのではないか。

【 指導助言 】 高校教育課 指導主事 近 藤 俊 春 先生

・評価に関しては、提示することは大事だが、途中過程で「ここを見ている」ということを伝えるということをしていけば良いのではないか。（毎時間伝える必要はないが。）

・評価規準…真ん中を決めてから、上と下を決める。ここができて、更にもう一つができればその上。なかなかそこに達していないとなればその下、というような評価をしてみてはどうか。

・T1と T2の役割分担がしっかりとされており、個に応じた対応と機能がなされていた。

・ICT 活用時のトラブルは、多少あってもしかたがない。電子黒板に字を映すと、見えづらいという問題点はどうしても生じるが、生徒もタブレットで同じものを見ているのであれば手元で確認できるので、それはそれで構わないのではないか。

・教員の問いかけに対する生徒の反応が非常によかった。生徒と教員、T1と T2同士の信頼関係がよく構築されているという印象を受けた。

・「主体的・対話的で深い学び」についても全体を通して意識されていた授業だった。先生方が生徒の意見を必ずしっかりと受け入れ、否定しない対応を行っていたのが好印象だった。

理科 『生物基礎』

【 授業者より 】

・指導案でゴールとしていたところまでたどり着けなかった。時間配分やテーマ設定に改善の余地がある。

【 協議より 】

・ジャムボード、PDF データ提示、インターネットを使った調べ学習で ICT を活用していた。

・個人での思考→グループでの協議→まとめ という流れのなかで、個の時間が短めに設定されていた。個で考えたり作業したりすることが難しい生徒もいたりと、様々なレベルの生徒がいる。しかしグループになることで、一人で悩んでいたことが解決できたり、或いはできない子とできる子の双方に学びがあったり、という効果が生まれていると感じた。

・ジャムボードも、生徒は使い慣れている様子だった。

・前回の復習からスタートし、話し合いや席の移動も含めて、授業の流れに生徒がついてきていた。普段の授業の積み重ねがあるからこそ、生徒が理解できているのだと感じた。

・どのような進め方をすれば、個人での思考がよりできるようになるのか。

・最初にブレーンストーミングを行い、皆で一緒にキーワードを挙げたり、核となるイメージを持たせたりすることが、個で調べたり考えたりするヒントになるのではないか。

・手だて①について。各場面の設定での注意事項を、授業者がよく考え、準備していた。研究授業として内容の濃い 50 分の授業を見せていただいた。

【 指導助言 】 高校教育課 指導主事 丹 啓 記 先生

・研究授業ということで、1コマに凝縮してやっていただいたのだと思う。ここまでの内容を毎時間行うことは厳しいのではないか。単元ごとや、一つの学習のまとまりとしてこうしたことを行っていけば、今回の 1 か月前課題のハードルは下がるのではないか。

・多様なレベルの生徒に対する支援について。ジャムボードにまとめる際、授業者が 5W1H を活用した、生徒が答えやすい設問をのせていた。こうしたことを丁寧にやっていくことで、生徒にとって分かりやすい聞き方や支援につながるのではないか。
・調べ学習について。インターネットの情報は、全てが正しいわけではない。検索する際、ドメインに県や国の機関のものを付け加えると、信頼性の高いものに限定して検索をかけられる。
・電子黒板だけでなく、通常の黒板についても、新しい活用法があるのではないか。
（例…生徒から出た意見を黒板にも書き込む）

2 指導主事講評

（1）高校教育課 指導主事 近 藤 俊 春 先生

・諸表簿について。指導要録をはじめとして、全体的にとてもよく整理されていた。丁寧に、細かく生徒を見てくださっているという印象を持った。若干お願いしたいことについては、ご担当の先生にお願いしているので、ご確認いただきたい。
・生徒指導について。交通事故に関して、10 月 20 日時点で高校教育課に 46 件の報告がある。ほとんどが通学途中の自転車事故で、相手は自動車が多い。どちらかの前方不注意が主な理由である。砂利道でブレーキをかけたことや、傘が前輪に挟まってしまったことが原因となった事例もある。日暮れが早まっている時期でもある。先生方も、雨の日や夜の運転で危険な思いをしたことがあるのではないか。そうした状況では相手も自分も見えにくいということを生徒によく伝えて交通安全指導をお願いしたい。
・不審者も、10 月、11 月が年間を通じて最も多い時期である。一人で歩くことや、人通りの少ない場所を歩くことを避けるよう、生徒への指導をお願いしたい。
・いじめについて3つお話ししたい。
①初期対応、組織対応について。基本中の基本である。これまでの多くの場面研修で確認されてきたことをご活用いただきたい。
②保護者対応について。保護者との信頼関係構築のため、丁寧な対応をお願いしたい。保護者との良好な関係が築けたことで、深刻化を防げたケースも少なくない。保護者の都合を優先して来校日時を決める、決めた時間を守る、保護者来校時にねぎらいの言葉をかける、といったことの積み重ねをしていただきたい。
③未然防止について。日々の教育活動の積み重ねのなかで、生徒の自己有用感を育むことが、いじめが出にくい教室環境づくりにつながる。いじめの追跡調査で、そうした結果も出ている。「誰かの役に立っている」「誰かのために自分が貢献できている」といった思いを授業や学校行事のなかで、生徒に味わわせることが、結果的に生徒指導の重大事案につながらないということになる。

（2）高校教育課 指導主事 丹 啓 記 先生

・多くの業務を抱える中で、先生方が生徒一人一人に丁寧に御指導くださっていると感じた。廊下ですれ違う時の挨拶や、授業中の応答がよい。先生方の普段の指導が、生徒に行き渡っていることによるものである。
・地元を支える人材育成につながる地域連携について、お話させていただきたい。
①地域との結びつきを重視した教育活動について。（学校設定教科「地域」等）生徒が自分の将来と学校での学びがつながっていると感じることで、主体的になれるような工夫がなされている。総合的な探究の時間では、地域の課題解決に挑戦するような場面もあるということも伺った。各学年で生徒に当事者意識をもたせ、地域課題解決というゴールを意識した取り組みをおこなってほしい。
②生徒が長く地域を支える人材となるために、雄勝校の教育活動のなかで少しでも生徒の能力を引き上げる取り組みを行ってほしい。（勉強のしかた、粘り強く学習に取り組む態度等）
③ビジネス系、土木系、福祉系、どれにおいても資格取得は重要である。高校卒業後も資格取得に挑戦するうえで、高校在学中から家庭学習の習慣や、自ら時間を作って努力するするといった学びの資質を高める取り組みを普段の授業も含め、行っていただきたい。
④授業の中で、共働、共感を意識できる、チームで何かを成し遂げる体験の充実を図ってほしい。
⑤先生方も、地域が求める人材について、理解を深めてほしい。引率時に地域の方々からお話を伺うとともに、ご多忙とは思うが、時間が許せば先生方も地域活動にご参加いただきたい。

3 校長挨拶

・今年度から新学習指導要領が実施されている。また、新型コロナウイルス感染拡大や GIGA スクール構想の前倒しによる、一人一台タブレット端末配布もあった。学校の ICT の波により、ここ数年で我々の指導のあり方も含め、生徒の学習環境は非常に大きく変化した。まさに教育改革、変革の時であると感じている。そうした中で、今回の指導主事訪問における１か月前課題は非常に重要なものであった。学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り、次につなげるという主体的な学びを生徒が実現できているか。また、生徒同士の共働、対話を手がかりに自己の考えを広げたり深めたりする、対話的な学びが実現されているか。また、見方や考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けさせてより深く理解する、深い学びができているか。その中に ICT をうまく活用して具体的なゴールをめざす。そうしたことの実現は、我々教員がどのようにしかけるかにかかっているということを改めて実感させられた。近藤指導主事、丹指導主事のお二人からもたいへんご協力をいただいた。ありがとうございました。コロナ禍でこうした議論の機会はなかなか設けられなかったが、対面で議論することの重要性を改めて痛感した。今後はご指導いただいたことを念頭に置き、引き続いて雄勝校版の ICT を活用した「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて組織的に授業改善にとりくむことはもちろん、生徒の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びを目指して、全員で研鑽を積んでいきたい。本日はお忙しいところ本校にお越しくださり、誠にありがとうございました。

・先生方においては、一日たいへんお疲れ様でした。生徒が明るく元気な点が、本校の大きな特徴である。また、教員同士のアットホームさも売りである。本日の御指導を今後の教育活動に生かして、更に頑張っていきたい。

令和4年度 福祉授業実践報告

福祉科 教諭 髙橋 直子

1 本校の令和4年度教育課程について

普通科のコース選択制である。2年生から選択授業を実施している。科目名と単位数は次のとおり。

福祉系3年生は「介護職員初任者研修」を実施している。※印の科目は学校設定科目。数字は単位数を示す。

1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活	体育	保健	英語コミュⅠ	音楽Ⅰ	家庭総合	情報Ⅰ	※地域理解	雄勝野※
	2	2	2	4	2	3	1	4	2	2	2	1	1
2年	国語表現	現代文B	世界史A	数学A	生物基礎	体育	保健	コミュニ英語Ⅱ	音楽Ⅱ	家庭総合		※地域実践	雄勝野※
	2	2	2	2	2	3	1	2	2	2		1	1
	実務系選択科目			福祉系選択科目									
	測量	ビジネス基礎	情報処理	フードデザイン	社会福祉基礎	介護福祉基礎							
	2	2	2	2	2	2							
3年	国語表現	現代文B	日本史A	※数学演習		体育		英語会話	音楽Ⅲ	フードデザイン		※地域研究	雄勝野※
	2	2	2	2		2		2	2	2		1	1
	実務系選択科目			福祉系選択科目									
	化学基礎	ビジネス実務	情報処理	社会福祉基礎	こころとからだの理解	生活支援技術							
	2	3	2	1	2	4							

2 生徒数について

過去3年間の生徒数と、コース別の選択者数については次のとおり。数字は年度当初のもの。

年 度	選択コース名	学 年(人)			全校生徒数(人)
		1年生	2年生	3年生	
令和2年度	普 通 系	16	12	3	
	福 祉 系		8	5	
	計	16	20	8	44
令和3年度	普 通 系	12	8	12	
	福 祉 系		8	8	
	計	12	16	20	48
令和4年度	実 務 系	10	7	7	
	福 祉 系		5	8	
	計	10	12	15	37

３ 外部との連携について

№2は2、3年生の活動で、それ以外は3年生の活動。№1の活動について一部抜粋して記載する。

№.	学習内容	実施日時	実施場所	科目名
1	介護保険制度介護予防事業「まめで元気教室」の通所御利用者との交流 健康チェック・前室でコミュニケーション・ストレッチ体操・レクリエーション・トレーニングジム見守り補助等	6月15日・22日・7月6日・8月24日・11月2日 全5回(すべて水曜) 10:00 ～ 11:45	湯沢市雄勝スポーツセンター (NPO 法人こまちハート・オブ・ゴールド運営)	生活支援技術
2	湯沢市 地域包括支援センター 保健師 認知症サポーター養成講座	6月28日（火） 13:25 ～ 15:15	本校(全校参加)	ホームルーム活動
3	介護老人保健施設 看護師 「医療との連携」	10月4日(火) 9:55 ～ 11:45	本校	
4	介護老人保健施設 看護師 「認知症の理解」	10月18日(火) 9:55 ～ 11:45	本校	こころとからだの理解
5	特別養護老人ホーム 介護支援専門員 「介護職の職業倫理」	10月20日(木) 13:25 ～ 15:15	本校	社会福祉基礎
6	介護老人保健施設 看護師 「死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護」	10月25日(火) 9:55 ～ 11:45	本校	こころとからだの理解
7	特別養護老人ホーム 介護支援専門員 「衣服の着脱の介助」	11月17日(木) 13:25 ～ 15:15	本校	生活支援技術

◆介護予防事業の体験実習

①目　的　（1）介護予防事業「まめで元気教室」に通所されている御利用者との交流および教室の運営補助をとおして、受け入れる側のサポートの役割の意義と、個に応じた介護予防を考える力を養う。

（2）高齢者との関わりをとおして、コミュニケーション能力を高める。

②参加者　3年生福祉系統 8名

③行　程　移　動　９：４５ ～ １０：００

実習時間　１０：００ ～ １１：３０

(バイタル)　１０：３０　…保健師による健康チェックの間の交流タイム

(ストレッチ)　１１：１０　…４０分かけて体操、利用者の間に入って着席

(トレーニングジム)　１１：３０　…積極的にコミュニケーション

移　動　１１：３０ ～ １１：４５　学校へ戻る

④生徒の感想より

・ 秋ノ宮の実習を通してコミュニケーション能力を高めること、高齢者との関わり方を考えることができた。はじめの体操は長い時間を使ってやっていたが、全身をほぐすことができる体操だと思った。また、体操のときに季節に関係したワードゲームもやっていた。脳の活性化がされていることや、自分の知らない旬を知るきっかけになった。

・ 器具を使った介護予防では、利用者がとても元気なことに驚いた。緩やかな筋力トレーニングをされているのかと想像していたが、ハードなマシンを使ったり、ウエイト(重り)も想像以上に負荷をかけていた。一緒に数を数えたり、「頑張りましょう」など声掛けをしたときに利用者さんが笑顔になってくれた。

・ 実際に関わってみて、名前を呼んで会話を始めることが大切だということを体感した。相手の名前がわからなければ、どのタイミングで声をかけて良いのかわからなかった。名前を覚えることは大切だと思った。私も名前を覚えていただいて呼んでいただいた時や「久しぶり」と言われたことが嬉しかった。相手の名前がわからないときは、挨拶から始めて、自分が名乗ったあとに利用者の名前を伺うことが良いと思った。

・ 話をする時、その場に適した大きな声と笑顔が大切だと感じた。「ん？」と聞き直されることが何度かあり、これでは

声が小さいのだとわかった。数人の利用者さんから「笑顔が素敵よ」と言われた言葉が印象に残っている。伝わりやすい言葉の選択や、ジェスチャーなども身につけなければならないと思った。

・最後のプレゼントの時、涙を流して喜んでくださった利用者さんがいた。楽しかったと何度も言ってくださった。実習させていただき感謝しているのは自分の方なのに、自分の方が嬉しい気持ちで胸がいっぱいになった。

◆利用者向け「おうちでストレッチ体操」の冊子制作について

①制作の経緯　「まめで元気教室」のストレッチ体操は、ゆっくり時間をかけて40分程度実施されている。コロナ禍で教室の開催がストップすることがあったが、教室がない時など日頃から自宅でもこの体操に取り組んでいただけるようにしたい、という事業者からの要望があった。

過去に本校の先輩方が同様の冊子を制作した当時よりも体操の種類が充実しており、新たに冊子を制作することとなった。

②制作方法　1)「まめで元気教室」内で、利用者の前で手本を見せる職員の動きを動画で撮影する。

2)撮影した映像を基に、校内で写真撮影する。モデルと撮影の係は、全員で分担して行う。

3)体操の動作の説明文を考える。文章のとおりに身体を動かすことができるか確認する。

4)冊子の各ページデータ作成。印刷、綴る。利用者用と事業所保管分で30部制作。

③体操と、学校での画像撮影の様子

④完成した冊子の一部

第３学年福祉系（こころとからだの理解）学習指導案

日　時　令和4年11月16日（水）3校時
授業者　湯沢翔北高等学校雄勝校　髙橋直子

1. 単元名　第2章　自立に向けた介護の展開　第8節　睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

2. 単元の目標

睡眠・休養の生理的意味や睡眠時間とリズム、睡眠・休養に関連した機能低下や心身の影響について理解させる。

3. 単元と生徒

3年生から本科目の学習を開始した福祉系選択者8名で、介護職員初任者研修の修了を目指して意欲的に授業に取り組んでいる。本単元では、人間の生活の基本である睡眠の支援について理解するために、睡眠・休養の生理的意味や仕組み、睡眠時間とリズム、睡眠に関連した器官の理解など、快い睡眠を支援するために必要な知識を扱う。活動的な授業には興味・関心を示す生徒もいるため、知識習得と活動のバランスを取りながら展開したい

4. 指導の計画(7時間)

① 睡眠に関する基礎知識　・・・2時間
② 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法・・2時間
③ 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法・・・3時間（本時７／７）

5. 本時の計画

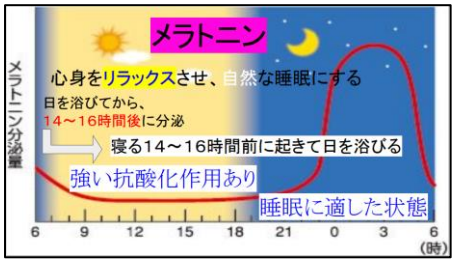
(1) 本時のねらい　心地よい安眠を支援するための知識をまとめることができる。

(2) 授業展開（50分）

段階	学習内容	学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	評価
導入 (5)	1 挨拶 2 今日の流れを確認 本時の目標：心地よい安眠の支援方法がわかる	・挨拶をする。 ・今日の流れを聞いて確認する。	・活動を明確に指示する。	
展開 (40)	1 ポイント整理（7） 2 スライド作成（17） 3 発表と質疑応答（16）	・安眠を支援する方法について、学習してきたことを参考にして各自でポイントを整理し、ドキュメントに入力する。 ・各グループで話し合いながら、スライドを共有作業で作成する。 ・スライドを電子黒板で表示して、「心地よい安眠の支援」の発表をする。他のグループの発表を聞く。	・スライドにまとめるため、ポイントは的を絞って整理するよう指示する。ドキュメントシートはclassroomに提出させる。 ・各自が整理した内容をもとにして作業を進めさせる。シートは1、2枚程度にまとめるので、文字数等見やすく工夫して作成させる。 ・作業進度を確認しながら次へ進める。 ・電子黒板への表示等、機器の操作を補助する。 ・時間配分を守って発表させる。	・課題の解決へ向けて、主体的に取り組んでいる。【B ドキュメントシート、スライドシート 】
まとめ (5)	4 本時のまとめ	・本時の学習の評価を記入する。	・本単元で学習したことを今後の自分の生活でも取り入れていくよう助言する。	

【A：関心・意欲・態度】【B：思考・判断・表現】【C：技能】【D：知識・理解】

6.生徒作成のスライドシートの中から～



↓発表の様子

特別支援教育に関する職員研修について

特別支援教育担当　　小泉 由起子

【校内職員研修】

Ⅰ．テーマ：就労指導に向けた事例研修

講　師：相談支援事業所 あいなび 齊藤 愛梨良 氏

実施日：令和4年8月18日（水）

内　容：

①事例検討(内容は省略)

②障害特性を踏まえた関わりについて

・自閉スペクトラム症について

社会性の困難さ…相手に興味がない、周囲から期待されていることがわからない

コミュニケーションの困難さ…どのように伝えればよいかわからない、抽象的なことを理解できない、場面に合わせたやりとりができない、一度に複数の情報を処理できない

想像力の困難さ…段取りや予定を立てることができない、今やるべきことを判断できない、自分のやり方から抜け出せない

感覚の特異性…些細なことが気になって作業が進行しない、音・光・人との接触・匂い等に対して敏感である

③必要な支援の検討（グループ協議）

学校での様子と障害特性を照らし合わせると、適切な支援が必要であることがうかがえ、高校卒業と一般企業への就職を目標とし、必要な支援を検討する。その際に得意なことと、不得意なことを挙げ、不得意なことに対して、どのような支援が必要かを検討する。

→挙げられた支援内容

・様々な活動場面で役割分担を明確にし、意図的に達成感や充足感を得られる場面を準備。

・全体指導では指示が通りづらいので、個別指導を行う。その際に、視覚に訴えるカードを利用したり、ノートに書かせたりする。

・支援の工夫について…視覚的構造化（見てわかりやすい状況　例：コンビニのコーヒーマシンの作業手順）、「いつ、どこで、何を、どれくらい、どうやって、次は」の情報を確実に伝え、どんな流れで活動するか見通しを持たせる。これらの支援は、障害を持っていない人にも活動のしやすさを与える。

④PDCAサイクルの活用

・P（本人を知る、得意・不得意を明確に把握する、支援を検討する）→D（支援を実践する）→C（評価する）→A（できたことは継続し、できなかったことは改善し再度実践する）

・教員が情報を共有し、統一した支援を提供する。

⑤本人のこれから

PDCAサイクルに取り組み、その状況を本人・家族と一緒に振り返る。学校での支援状況や、できていることとできないことを明確にし、本人・家族が状況を確実に把握して様々な選択肢の中から進路を決定させる。その際に、丁寧に情報共有のために面談行い、教員と本人・家族が信頼関係を構築していくことが大切である。

⑥関係機関・サイトの紹介

・湯沢雄勝障害者就業・生活支援センター（ぱあとなあ）

・秋田県発達障碍者支援センター　ふきのとう
・発達障害ナビポータル

感　想

指導がうまくいかずに、対応に苦慮する場面が多々あるが、私たち教員が困っているのではなく、困っているのは生徒であり、支援を必要としているということを改め考え直したい。支援の工夫をしているつもりでも、生徒にとっては方法が合わない場合も考えられるので、評価と改善を常に行い、生徒にとって適切な支援を常に模索していく必要があると感じた。また、教員一人で抱えずに、学校全体で情報を共有し、統一した支援をしていく重要性も感じた。ただ、支援を必要としている生徒は一人だけではなく、クラス全体で考えたときに、適切かどうかも検討する必要はあるが、一人の生徒のためが、全体のためになるように支援をしていきたい。

2．テーマ：ゲートキーパー養成講座

講　師：寺田心理教育研究所 所長 寺田 誠 氏

目　的：悩んでいる人に気がつき、適切な対応ができるように指導・助言をいただく。

実施日：令和4年9月28日（水）

内　容：講話より

県の事業で補助金をいただいての講話。県の至るところや、今講座は生徒にも実施している。一般企業や町内会など、どんなところでも話をしている。自殺予防についての話。秋田県は自殺率が上位であり、予防に取り組んでいる。その中、先生方のメンタルヘルスは不十分である。自殺率では、秋田県はしばらく全国ワースト1～3 位だった。令和2年は10位、3年は7位である。令和2年、自殺率が全国平均に近づいてきた。死因は、男性では10代～40代で自殺が1位。女性では10代～30代で自殺が1位、30代～60代が2位。五大疾病の患者数は、2位が精神疾患（うつ病）。仕事が忙しくて休めない、寝られないなどと話す人に対する対応。

質問やアドバイスは、精神疾患の人には大打撃となる。感情を表す言葉をキャッチして伝えることが大事。なぜなら、人間は感情に基づいて行動するため。傾聴が100%は無理でも、そういう態度で接する。

ゲートキーパーとは … 自殺者は、死にたい人ではない。悩んでいる人。だから、キーパーは「生きる人を支援する人」。関係性ができてくると、自分一人で抱える必要がなくなる。学校職員も、一人一人がゲートキーパー。共に悩んでいく。悩みを解決しようとするよりは、お互いのエネルギーをぶつける。毎日生きているけど、毎日死に向かっている、死に向かっているエネルギー。

●気づき → 声かけ → 傾聴 → つなぐ・見守る

声かけ・・・先入観が働くと、誘導してしまう。広い間口で入った方が良い。
話がしたいが、知られたくないという人もいる。あまり勘ぐらない。
「眠れているかどうか」はとても大事。具体的な眠りの様子と熟睡感

傾　聴・・・100%は難しいが、意識して。生徒をこのまま家に帰しても良いのか不安な時は、連携、抱え込まない、共有。「死にたいと言っていました」と言うことを伝える。必要に応じてリファー（専門機関につなぐ）。

●自殺の危険因子

自殺企図歴・・・具体性エネルギーがあるからよいというわけでもない。エネルギーは衝動性になる。

事 故 傾 性・・・よく車をぶつけるなど

アルコール問題・・・全国的に苦しんでいる人がいる
自己肯定感が小さい人は、自分に価値がないという物語ができあがると死に向かいやすい。
白黒傾向のある人は、「終わらせたい」「抜け出したい」から「死にたい」になる。
「死にたい」という生徒には、いろいろな教材を使っていろいろな見方があることを伝える。
うつの人の特徴・・・変化に気づくこと
味方メッセージ・・・頑張りましょうと言っても何を頑張るかわからない。
高校生の自殺者数は増えている（令和元年→令和2年）。
T・A・L・Kの原則・・・「A」死にたい気持ちを受け止める意味で聞く。→その後の対応をしっかりと。
リストカットは緊急性というより、気持ちを聴いて欲しい。

●質疑応答

Q1.「つなぐ」には、どんなところがあるか？
A1. NPO法人蜘蛛の糸（秋田市）。ラインでの相談もしている。ほか、県のHPなど。
Q2. 秋田県人は、自殺というと構えてしまって、具体的に聞けない。でも、具体的に「自殺を考えていますか」と聞いたほういいと研修会で聞いたが？
A2. 受け止めて、死にたいと思っているんですね、と伝える（死というワードを外さない）。具体的な過去の行動を聞くなど。ただ、自分は死んで欲しくないと思っていることをきちんと伝える。
自分は逃げないということを伝える。
Q3. 表情には出ているが「何でもないです」という生徒。どこまで聞けばいいのか？
A3. 緊急性がないことを前提に、つないでいくことが大事。自分(教員)は気にしているよということを伝える。何かあったら聞くよと。次の日、本人の気持ちに変化があり話したくなることも。
Q4. うつの人の特徴で、暴力的な行動をとられた時どうするか？
A4. うつ病は1つではない。いろいろ種類がある。基本的には受け止めていく。普段と違うと心配する。専門機関必要と伝える。必要ならば一緒に行くなど、専門機関につなげる。

感　想：自殺はいつ起こってもおかしくない事案だという認識を持つことができた。ある程度の知識を得ることができたが、一人では抱えきれないものであり、チームで対応する、つなぐ、ストレスにならない程度に支援することが大切だということがわかった。

【センター研修】

テーマ：自校におけるインクルーシブ教育の推進
講　師：宮城学院女子大学教育学部　教授　梅田真理　氏
実施日：令和4年8月19日（木）（オンライン研修）
内　容：Ⅰ講義・演習「発達障害の理解と支援」
Ⅱ公開講演「インクルーシブ教育時代に押さえる授業づくりのポイント
～読み書きに困難がある児童生徒の早期発見と理解～」
感　想：発達障害について、自分では知っているつもりだったが、梅田先生の講義を拝聴して、改めて詳しく学ぶことができた。高校に入学してくる生徒で、学習や人間関係で難儀をする生徒が増えてきており、高校卒業後を考えたときにどのような指導をしていけばいいのか悩んでいたが、「一緒に考えてみる」という一番大事なことに気づかされた。もっと生徒の声に耳を向ける余裕が今の自分には必要だと思った。生徒と接していると、果たして当の本人は今置かれている現状を

理解できているのだろうか、それを苦しいと感じているのだろうかと思うことがあった。それをうまく伝えるヒントを今日の講義でいただけたような気がする。

読み書きに困難のある生徒の顔を思い浮かべながら講義を拝聴させて頂いた。自分自身、当たり前と思っていることが実はそうではなく、読み書きに困難を抱えている生徒にとっても、今できることが当たり前であるということを、教師は意識していかなければならないと思った。また、不得意な部分に目が行きがちなため、得意なことを見つけ評価することが大事であるとわかっていながらもできずにいる今の自分の対応について反省させられた。自分自身の不得意な部分は自分でわかっていても、他者から指摘されることが苦手と小さい頃から思っていたことを思い出し、生徒もそうなんだなと考えさせられた。